

JA全農ちば 営農情報集 (5月号)

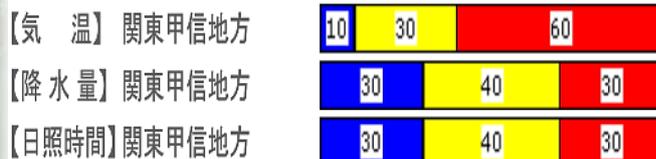
今月の情報

- ①水稲 本田殺虫剤と後期除草剤の使用上のポイント
- ②試験結果紹介 ハウスの高温対策について
- ③園芸野菜 病虫害防除情報
- ④果樹 病虫害防除情報
- ⑤安全な農作物生産の取り組みについて☆異物混入を防ぎましょう☆

5月の気象について（気象庁 5/7 発表 長期予報（1か月）から）

1. 気温は例年より高い予報です。また特に5月上旬は晴れの日が少ない（降雨が多い）予報であり、各作業の日程にはご注意ください。
2. 気温が高いため、施設栽培・育苗ハウスでは換気・遮光に注意してください。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

注意とお願い

農薬登録は掲載時点の内容です。農薬を使用する際には、最新の登録内容をご確認ください。

園芸施設 被害対策

全農では農業施設の台風対策・パイプハウスの建て方動画などを公開しています
アピネスアグリインフォ自然災害対策をご参照（JA全農ちば営農資材コーナーからもリンク）
HP：<https://www.agri.zenoh.or.jp/N_index.aspx> または「アピネス」で検索

営農技術情報集のカラー版や、その他の営農情報は全農ちばHP内営農情報コーナーにて公開中！
全農ちばHP< <http://www.cb.zenoh.or.jp/index2.html> >

水稲 本田殺虫剤と後期除草剤の使用上のポイント

J A全農ちば
営農支援部

イネミズゾウムシ・イネドロオイムシなどの初期害虫が多い水田は、多発生にならないよう発生状況に応じて追加の防除を実施しましょう。

また取り残したノビエや多年生雑草も対策を取りましょう。

1. 初期害虫の生態及び防除対策

移植同時の箱施薬剤を使用した場合でも害虫の発生量が多いと防除しきれないことがあります。食害が多い場合は本田防除剤による追加防除を行いましょう。

千葉県 の 病害虫発生予報(4月17日発行)では、イネミズゾウムシは「小」、イネドロオイムシは「並」となっています。

(1) 初期害虫の生態

①イネミズゾウムシ

- ・体長3～4mm。年1回発生。
- ・成虫で越冬し、18℃以上の気温と風速1～2m以下の弱風条件下で飛翔する。
例年では4月下旬頃から飛来開始。
- ・成虫は葉脈にそって細長く食害する。幼虫は根を食害し初期生育を抑制する。

②イネドロオイムシ

- ・体長5mm。年1回発生。成虫で越冬し5月以降飛来する。
- ・成虫、幼虫ともに葉を食害するが、幼虫による被害が大きい。

(2) 本田防除対策について

①成虫(イネミズゾウムシ・イネドロオイムシ)を中心とした防除対策

5月中～下旬に合成ピレスロイド系薬剤(水面施用剤)を散布する。

・トレボン粒剤 2～3kg/10a

※合成ピレスロイド系の薬剤は薬剤が害虫と接触することで効果が発揮されるので、散布時期(成虫を対象)に注意することと3～5cmの湛水条件で散布することがポイントです。

②幼虫(イネドロオイムシ)を中心とした防除対策

※幼虫による食害が見られ始めたら「粉剤」に切り替えて散布する。

・トレボン粉剤 DL (3～4kg/10a)、スタークル粉剤 DL (3kg/10a)



イネドロオイムシの幼虫と被害葉



イネドロオイムシの成虫と被害葉

2. 取り残しの水田雑草対策

移植後の活着不良により一発除草剤の散布が遅れた場合や、水管理がうまくいかなかった水田では除草剤が効果を発揮できず取り残しの雑草が発生します。その場合は使用時期や対象雑草を確認し、後期除草剤による対策をしましょう。後期除草剤は残った雑草によって効果的な薬剤が異なるので、選択を間違えないよう注意しましょう。

(1) ノビエ及び広葉雑草などが残った水田

レブラス1キロ粒剤・ジャンボ

- ア. 使用時期：移植後14日～ノビエ4葉期ただし、収穫60日前まで
- イ. 使用方法：湛水散布。ジャンボ剤は水田に小包装（パック）のまま投げ入れる。
- ウ. 使用薬量：1キロ粒剤 1kg/10a
ジャンボ剤 小包装（パック）10個(400g)/10a
- エ. 特 徴：ノビエのほかコナギ、ホタルイ、クログワイ、オモダカ、コウキヤガラなど広範囲に効果を示す。

クリンチャーバスME液剤

- ア. 使用時期：移植後15日～ノビエ5葉期 但し、収穫50日前まで
- イ. 使用方法：落水散布または、ごく浅く湛水して散布。散布後3日間は入水しない。
- ウ. 使用薬量：1000 ml/10a
- エ. 散布水量：100ℓ/10a (100倍液)
- オ. 特 徴：ノビエに効果がある「クリンチャー剤」と広葉雑草に効果を示す「バサグラン剤」との混合剤。

フォローアップ1キロ粒剤

- ア. 使用時期：移植後15日～ノビエ5葉期（稲4葉期以降）但し、収穫60日前まで
- イ. 使用方法：湛水散布
- ウ. 使用薬量：1kg/10a
- エ. 特 徴：ノビエのほかクログワイ、オモダカ、ミズガヤツリなどにも効果を示す。効果は遅効的に表れる。

ワイドアタックSC

- ア. 使用時期：移植後20日(稲5葉期以降)～ノビエ6葉期まで 但し収穫30日前まで
- イ. 使用方法：落水散布または、ごく浅く湛水して散布。散布後3日間は入水しない。
- ウ. 使用薬量：100 ml/10a
- エ. 散布水量：100ℓ/10a (1000倍液)
- オ. 特 徴：フォローアップ1キロ粒剤を参照。しっかりと茎葉散布処理をする。

アトトリ1キロ粒剤・豆つぶ250

- ア. 使用時期：移植後14日(稲5葉期以降)～ノビエ4葉期 但し、収穫45日前まで
- イ. 使用方法：湛水散布
- ウ. 使用薬量：1キロ粒剤 1kg/10a
豆つぶ剤 250g/10a
- エ. 特 徴：コウキヤガラ、オモダカなどの多年生雑草に対する効果高い。
ノビエも対象にする場合は、葉齢に注意し散布する。

(2) ノビエのみ残った水田

クリンチャー1キロ粒剤

- ア. 使用時期：移植後7日～ノビエ4葉期 但し、収穫30日前まで
- イ. 使用方法：湛水散布
- ウ. 使用薬量：1 kg/10a
- エ. 特 徴：ノビエに効果を発揮。

(3) 広葉雑草のみ残った水田

バサグラン粒剤・液剤

- ア. 使用時期：移植後15～55日 但し、収穫60日前まで(液剤は収穫50日前まで)
- イ. 使用方法：落水散布または、ごく浅く湛水して散布。散布後3日間は入水しない。
- ウ. 使用薬量：粒剤：3～4 kg/10a
液剤：薬量700ml・水量70ℓ・100倍液
- エ. 特 徴：対象草種は広葉雑草のみ。液剤はしっかりと茎葉散布処理をする。

作成：古内

ミスト機・循環扇・遮光資材を組み合わせた ハウス高温抑制対策試験について (試験結果紹介)

JA全農ちば
営農支援部

1. 高温時期のハウス内は植物にとって過酷な環境

近年、夏期の気温が上昇傾向であり、ハウス内温度も以前と比べて、上昇しており、この期間で作物を栽培する場合、遮熱・温度低下対策が必要になっています。

また、気象庁データでは日本の夏（6～8月）平均気温は、様々な変動を繰り返し、長期的には100年あたり1.11℃の割合で上昇しています。

今回は、ハウス温度抑制対策として、ミスト機・循環扇・遮光資材を組み合わせた取組結果を報告します。

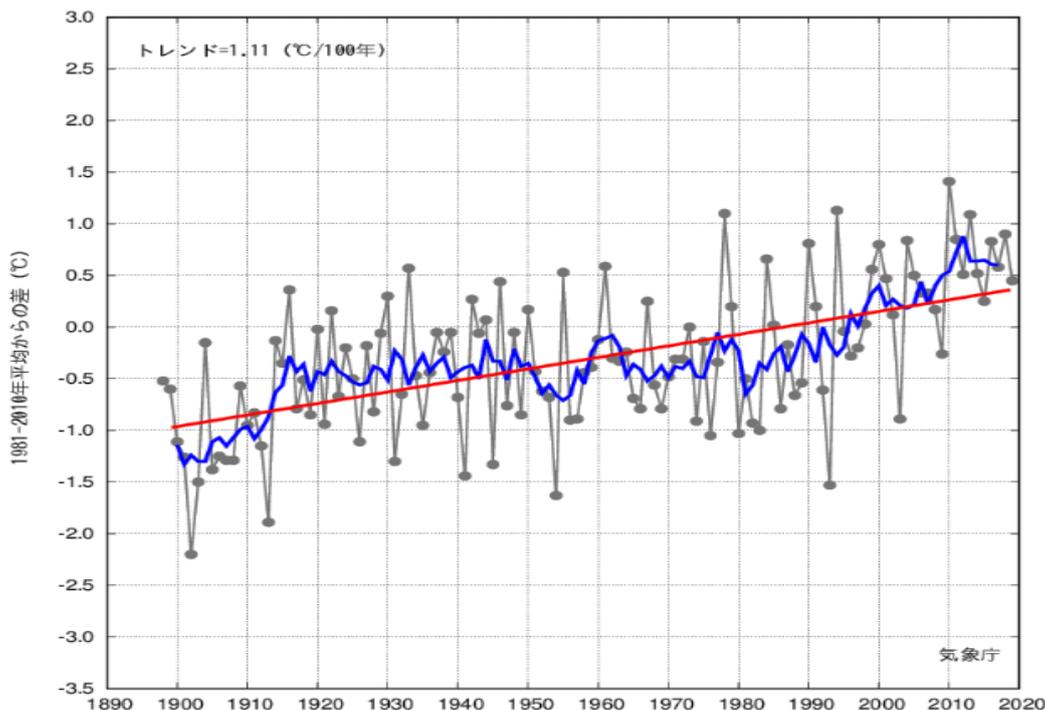


図1 日本の夏（6月～8月）平均気温偏差の経年変化（1898～2019年）

細線（黒）：各年の平均気温の基準値からの偏差、太線（青）：偏差の5年移動平均値、直線（赤）：長期変化傾向。

偏差：（1）月平均気温－1971～2000年の平均値（2）年・季節で平均（3）（2）の値を地点ごとの偏差を平均（4）年・季節・月のそれぞれについて1981～2010年の平均と1971～2000年の平均との差を（2）や（3）の値から差し引き、その年・季節・月の日本の平均気温の偏差（1981～2010年を基準とする偏差）とする。基準値：1981年～2010年の30年平均値

引用：気象庁 日本の夏（6月～8月）平均気温偏差の経年変化（1898～2019年）

2. 対策の概要

(1) 対策の狙い

- ア ミスト機で噴霧した水分が蒸発した際に、周りの熱を奪う気化熱によって、温度を低下させる。
- イ 気化熱の効果をより広範囲とするため、循環扇にて循環流を発生させ、温度・湿度ムラを解消する。
- ウ 遮光資材により太陽光・熱を遮る

(2) ミスト機・循環扇・遮光資材について（試験に用いた機材）

ア ミスト機

有限会社ガリユー 水道直結型ウォーターミストSPG-C1なお、このミスト機はエア圧0.5～0.8Mpa、エア量0.5Mpa時130ℓ毎分の加圧が必要なため、藤原産業製エアコンプレッサーSW-231を2台使って加圧しました。

発生するミストは粒子径1～5μm、最大噴霧量40ml/分（メーカー確認内容）で稼働時間は8：00～16：00としました。

イ 循環扇 フルタ電機(株) エアビームAB271P

ウ 遮光資材 ダイオ化成(株) カルクールSW-30（遮光率30%）をハウスに展張

3. 温度抑制調査結果について

上記機器・資材を設置したハウスと慣行ハウス（機器・資材設置無し）にて、2019年8月20～2019年8月29日にて温度および湿度を計測しました。

その結果、慣行ハウスと比べ、設置したハウスでは

温度：最高温度で-18.2ポイント 最低温度で -0.7ポイント

平均温度で -4.8ポイント

湿度：最高湿度で +4.0ポイント、最低湿度で+22.0ポイント、

平均湿度で+19.3ポイントとなりました。

表1 ハウス内温度・湿度計測結果（2019年8月20日～29日）

	最高温度 (°C)	最低温度 (°C)	平均温度 (°C)	最高湿度 (%)	最低湿度 (%)	平均湿度 (%)
慣行区	58.1	22.5	31.3	95	15	64.
ミスト区	39.9	21.8	26.5	99	37	83.3
慣行区差	-18.2	-0.7	-4.8	+4.0	+22	+19.3

※ティーアンドディ製おんどとりease RTR-322にて10分ごとに計測。調査数は6,264。

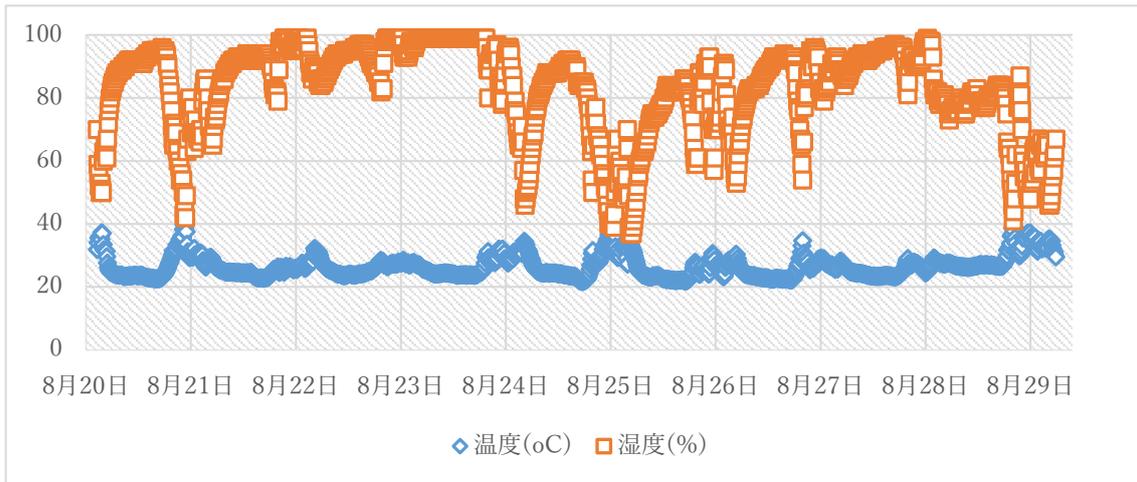


図1 ミスト設置ハウスの気温および湿度の推移

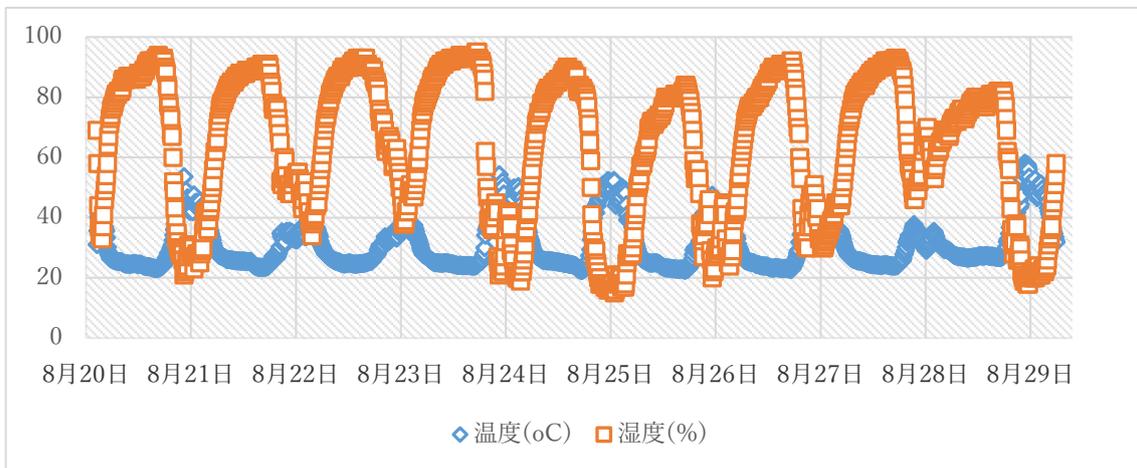


表2 慣行ハウスでの温度および湿度の推移



画像1 循環扇とミスト機

園芸野菜 病害虫防除情報

J A全農ちば
営農支援部

1 はじめに

4月は強い降雨があり、また比較的低温の日が多かったため害虫の発生は少ないですが、今後気温が高くなると増加することが予想されます。圃場の発生状況を確認し、早期の防除をしましょう。

2 アブラムシ類 [ダイコン・スイカ・メロン]

発生が増えると葉の萎縮等の被害が生じます。また、収穫物にアブラムシ類が混入すると、品質の低下に繋がります。

薬剤選択時にはダイコンは収穫前日数、スイカ・メロンはミツバチへの影響に注意しましょう。

○ダイコン アブラムシ類防除薬剤

対象害虫	薬剤系統 (IRAC)	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
アブラムシ類	4A	アドマイヤーフロアブル	4000	収穫14日前	2回以内
	4C	トランスフォームフロアブル	2000	収穫前日	3回以内
	29	ウララDF	2000	収穫前日	2回以内

○スイカ アブラムシ類防除薬剤

対象害虫	薬剤系統 (IRAC)	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
アブラムシ類	4A	モスピラン顆粒水溶剤	2000~4000	収穫3日前	3回以内
		バリアード顆粒水和剤	2000~4000	収穫前日	3回以内
	23	モベントフロアブル	2000	収穫前日	3回以内
	29	ウララDF	2000~4000	収穫前日	2回以内

○メロン アブラムシ類防除薬剤

対象害虫	薬剤系統 (IRAC)	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
アブラムシ類	4A	モスピラン顆粒水溶剤	8000	収穫3日前	3回以内
		バリアード顆粒水和剤	4000	収穫前日	3回以内
	23	モベントフロアブル	2000	収穫前日	3回以内
	29	ウララDF	2000~4000	収穫前日	2回以内

※スイカ・メロンの各薬剤はミツバチ影響日数1日。

またモスピランはアザミウマ類、モベントはアザミウマ類・ハダニ類対策を兼ねる。

3 サツマイモ〔定植準備〕

①病害対策：つる割れ病

土壌伝染性で苗の切り口や土中の茎、根部から感染します。株全体が萎れ、葉は黄～黒褐色になり落葉します。茎の地際部が縦に割れ（つる割れ）ることが特徴です。

クロルピクリン剤（ドロクロール等）やガスタード微粒剤の土壌消毒を実施し、予防のため定植苗にも薬剤処理をしましょう。

○サツマイモ 定植苗防除薬剤

対象病害虫	薬剤名	使用量	使用時期	使用回数
つる割れ病	ベンレート水和剤	500～1000 倍 20～30 分間苗基部浸漬	植付前	1 回



被害株の様子



被害株の様子（写真左の株）

②害虫対策【センチュウ類・コガネムシ類・ハリガネムシ類】

●センチュウ対策について

品種について、「べにはるか」はセンチュウの影響を受けにくいですが、畑のセンチュウの量が減っているわけではありません。後作のために防除対策は必要です。

センチュウ対策ではD-D剤（DC油剤・テロン等）による土壌消毒と粒剤による防除を実施しましょう。

○サツマイモ ネコブセンチュウ防除薬剤

対象害虫	薬剤名	使用量	使用時期	使用回数	備考
ネコブ センチュウ	ネマトリンエース粒剤	15～20kg	植付前	1 回	作条処理
		10～30kg			全面処理
	ビーラム粒剤	20kg	植付前	1 回	全面処理

○サツマイモ コガネムシ・ハリガネムシ防除薬剤（作条・植溝処理の登録内容）

対象害虫	薬剤名	使用量	使用時期	使用回数	備考
コガネムシ類	アドマイヤー1 粒剤	4～6kg	植付前	1 回	ハリガネムシ登録なし
	ダズバン粒剤	9kg	植付時	2 回以内	
ハリガネムシ類	フォース粒剤	9kg	植付前	1 回	
	プリンスバイト	6kg	植付時	1 回	

作成：名雪

果樹 病害虫防除情報

J A全農ちば
営農支援部

1 はじめに

今年度は開花が早く、防除が前進化している圃場が多くみられます。また5月中旬までに数日間のまとまった降雨が予報されておりますので、防除間隔が空いたところに降雨が重なると黒星病発生のリスクも上がります。下記を参考に、黒星病発生の懸念のある園では追加防除をお願いいたします。

2 黒星病対策



【基幹防除】黒星病・心腐れ症・疫病などの総合予防

5月上旬 : ファンタジスタ顆粒水和剤 3000倍 (前日/3回以内)
+ トレノックスフロアブル 500倍 (30日前/5回以内)

5月中旬 : ベルクートフロアブル 1,500倍 (14日前/5回以内)

(この間の追加防除 下記のポイント②)

: ユニックス顆粒水和剤 47 2,000倍 (21日前/3回以内)
+ ベルクートフロアブル 1,500倍 (14日前/5回以内)

5月下旬 : キノンドーフロアブル 1,000倍 (3日前/9回以内)

●ポイント

①病斑の除去

果柄部や葉軸に黒星病の発生が見られる場合は摘果作業等と合わせて除去しましょう。

②黒星病の臨機防除や、前進化した防除タイミングを戻すため追加防除を行う場合

ユニックス顆粒水和剤 47 とベルクートフロアブル による追加防除を実施しましょう。ユニックスは有機リン系殺虫剤 (サイアノックス・ダイアジノン等) との混用は避けましょう。

③降雨が続いた場合は疫病の発生が予想されます。すでに発生した部位は切除し、アリエッティ水和剤 800~1,000倍 (14日前/3回以内) による臨機防除を行いましょう。

3 アブラムシ類、ハマキムシ類、ニセナシサビダニ等

5月以降、アブラムシ類・チョウ目害虫・ニセナシサビダニが発生します。特にアブラムシ類・ニセナシサビダニは新梢・新葉をよく観察し、防除を行いましょう。

複数種の害虫防除では基幹防除（防除暦）を参考としますが、それぞれの臨機防除が必要な場合は下枠内をご確認ください。



アブラムシ類被害



ニセナシサビダニ被害

【基幹防除】アブラムシ類・ハマキムシ類・その他害虫防除

5月上旬 サイアノックス水和剤 1,000倍（無袋45日前・有袋7日前／3回以内）

5月中旬 コテツフロアブル 2,000倍（前日／3回以内）

〔臨機防除〕アブラムシ類、シンクイムシ類の発生が見られた場合。

マブリック水和剤20 2,000倍（30日前／2回以内）

5月下旬 モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍（前日／3回以内）

※新高、長十郎等の場合→ダントツ水溶剤2,000倍（前日／3回以内）もしくは
アクタラ顆粒水溶剤2,000倍（前日／3回以内）のいずれかを散布する

●アブラムシ類臨機防除

アブラムシ類の発生が続き、臨機防除が必要な場合はウララDF（2000倍／14日前／2回以内）またはトランスフォームフロアブル（2000倍／前日／3回以内）を選択しましょう。ただし、どちらもこの時期の対象害虫としてはアブラムシ類のみなので注意。

●チョウ目害虫の臨機防除

近年、園により発生がみられます。基幹防除のサイアノックス・コテツ・モスピランがチョウ目害虫防除を兼ねますが、発生が多いようであれば サムコルフロアブル10 5,000倍（前日／3回以内）の追加防除を実施しましょう。ただしチョウ目害虫のみが対象なので注意。

作成：名雪

安全な農作物生産の取り組みについて

☆異物混入を防ぎましょう☆

JA全農ちば
営農支援部

1. 食の安心・安全について

昨今、消費者の食の安全安心への関心は継続して高く、それらに対するリスク管理が求められております。農産物の食の安全安心リスクの一つとして、異物混入が挙げられます。発生頻度の多いリスクでもありますので、収穫や出荷調整場面において事前に防いでいきましょう。

2. 異物混入を防ぎましょう！

①ハサミや包丁など収穫・出荷の際に使用する道具の混入を防ぎましょう

収穫や調整場で使用する道具は
片付ける場所を決めましょう



作業後に数を確認できるように
器具類は番号・色付けしましょう



②虫やタバコ、ペットの毛、ペン等が出荷物に入り込まないようにしましょう

異物混入の中では「虫」「タバコ」の混入が多いです！！

虫を作業場に入れないように
網戸などで防ぎましょう



調整場と喫煙・飲食場
で分けましょう



場所を分けることができない場合は
「作業時間」と「休憩時間」で区切り
都度片づけましょう

ポケットの中身の混入に
注意しましょう
※スマホの混入も増加中



チャック付のポケット等
に入れましょう

③出荷用の包装資材は清潔に保ちましょう

出荷用段ボールなどにカバーをかけて
埃がかぶらないようにしましょう
汚れた資材は使用しないようにしましょう



気づかないところで混入してしまうことが多いです。
「入れない」ための予防をしましょう！

作成：名雪・田代